

義肢装具適合に必要な評価学 第5弾 ～低活動下肢切断者へのアプローチ～

主催 公益社団法人 日本義肢装具士協会
研修委員会

近年、高齢者が増える一方で、循環障害を原因とする新規切断者も増えてきている。臨床においても外傷による切断よりは糖尿病を始めたとした循環障害による切断が多いのが現状である。義肢装具士としては、低活動切断者の義足ニーズが増える一方で、医療技術も進歩してきており、あらためて、評価という視点から低活動切断者に対する評価について学ぶことを目的とし、今回は義肢適合に必要な評価として、循環障害によるリスク管理の実態、関連職種によるリハビリテーションの実態新規切断者に対する採型実施までに必要な評価のプロセスの理解および、ソケット適合のみならず、日常生活に視点を置いた際の適合評価の重要性に関して包括的に評価の重要性とプロセスを理解できるよう、セミナーを企画いたしました。皆様からの参加を心よりお待ちしております。

記

日時：2020年 3月8日（日） 10：00～16：25

会場：武蔵野大学 有明キャンパス（東京都江東区有明3丁目3-3）

費用：（会員6,000円，医療系職種8,000円，非会員12,000円，学生会員1,000円）

*参加にあたっては事前申し込みと**事前入金**が必要です。

締切：2020年 2月1日（土）

講演内容

講演Ⅰ：「低活動下肢切断者における義足リハビリテーションの考え方

～義足を提供する上でおさえておきたいポイントを中心に～

田中 洋平 先生：JR 東京総合病院リハビリテーション科（MD）

低活動下肢切断者における医学的評価と義足の適応、断端や全身状態の医学的管理について理解するとともに、義足リハビリテーションの考え方について学ぶ

講演Ⅱ：「切断術前後のリハビリテーション方略」

岩下 航大先生：公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンター医事訓練科（PT）

切断術前後のリハ、歩行指導、歩行分析、理学療法評価などを包括的に理解し、切断術前後のリハビリテーション方略について学ぶ

講演Ⅲ：「低活動切断者のための義足製作に必要な評価とその帰結」

中村 隆 先生：国立障害者リハビリテーションセンター研究所 義肢装具技術研究部（PO）

入院時の患者評価と対応、断端管理、ソケットの選択、歩行訓練の帰結に及ぼす要因について低活動切断者への対応の観点から学ぶ

講演Ⅳ：「低活動切断者の義肢適合評価について」

橋本 寛 先生：パシフィックサプライ株式会社（PO）

2019年度 公益社団法人 日本義肢装具士協会 研修委員会 全国セミナーのお知らせ
 低活動切断者の問題点を整理し、ソケット、足部の選択方法の考え方や、歩行評価の基本について学ぶ。

【申込方法】<参加申し込みサイトからの参加申込>

右図の **QRコードをクリックまたはタップ**して頂くことで、参加登録サイトへ接続されます。そこから必要情報を記入の上、申し込みが可能です。申し込み受付後に参加費の事前振込みが必要となります。入金をもって登録完了となります。入金を確認でき次第受付番号とともに、本登録完了のお知らせをメールにて返信させていただきます。事前申し込み後3週間以内に入金されないとキャンセル扱いとなります。

※申し込み後、1週間しても連絡がない場合は、申し込み・問い合わせ先の担当までご連絡ください。

【申し込み・問い合わせ先】
 北海道科学大学 保健医療学部

幹事：昆 恵介（研修委員長）
 電話：011-688-2240
 メール：semi.poa@gmail.com



申し込みアドレス

<https://goo.gl/forms/ZHUhNo0IJvVyKV023>

タイムスケジュール

時間		内容
9:30	10:00	受付
10:00	10:10	開会のあいさつ
10:10	11:10	講義Ⅰ 「低活動下肢切断者における義足リハビリテーションの考え方」:60分 講師：田中 洋平 先生 :JR 東京総合病院 (MD)
11:20	12:20	講義Ⅱ 「切断術前後のリハビリテーション方略」:60分 講師：岩下 航大先生 :公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンター医事訓練科(PT)
12:20	12:40	企業 企業PR :20分(ランチョン・ワークショップ)
12:40	13:10	休憩 30分
13:10	14:10	講義Ⅲ 「低活動切断者のための義足製作に必要な評価とその帰結」60分 講師：中村 隆 先生 :国立障害者リハビリテーションセンター研究所 義肢装具技術研究部 (PO)
14:10	14:20	休憩
		講義Ⅲ 「低活動切断者の義肢適合評価について」60分
14:20	15:20	講師：橋本 寛 先生 :パシフィックサプライ株式会社 (PO)
15:20	16:00	シンポジウム(4名の先生が登壇して全体質疑および談話)
16:00	16:10	閉会のあいさつ